

DBS グループ・ホールディングス(DBSM)

「フィンテック」と「デジタル化」推進で世界的にも注目される。配当利回りに期待した投資も魅力的だろう。

シンガポール | 銀行 | 業績フォロー

BLOOMBERG DBS:SP | REUTERS DBSM.SI

- 2019/12 期 1Q (1-3 月) は、貸出の伸びおよび純金利マージンの上昇により、総収益が前年同期比 5.7%増の 35.51 億 SGD、純利益が同 9.3%増の 16.51 億 SGD だった。
- すべてのセグメントで増益となり、地域別ではシンガポールと中国本土が増益に寄与した。
- 同社の「フィンテック」と「デジタル化」の推進への取り組みは世界的にも注目される。配当利回りに期待した投資も魅力的だろう。

What is the news ?

4/29 発表の 2019/12 期 1Q (1-3 月) は、総収益が前年同期比 5.7%増の 35.51 億 SGD、純利益が同 9.3%増の 16.51 億 SGD だった。貸出残高が同 5.7%増となったこと、および純金利マージン(NIM) が前年同期の 1.83%から 1.88%に上昇したことを受けて貸出利鞘である純金利収益が同 8.6%増となったことが貢献した。純受取手数料収益は同 1.9%減の 7.30 億 SGD に留まったが、前年同期の受取手数料が高水準だったことの反動が大きかった。その他非金利収益はトレーディング収益と投資有価証券の出資利益の増加により、同 4.7%増の 5.11 億 SGD と増益に寄与した。資産の質では、不良資産比率が同横ばいの 1.5%と安定的に推移した。

セグメント別の税引前利益は以下の通り。消費者向けおよびウェルスマネジメントは純金利収益の伸長に支えられて同 15%増の 7.22 億 SGD。金融機関向けはキャッシュマネジメントおよび貸出関連収益の伸びにより同 22%増の 10.10 億 SGD。国債市場関連は金利・外国為替・クレジットの状況が追い風だったことから同 36%増の 1.52 億 SGD。いずれも好調だった。地域別の純利益は以下の通り。香港が前年同期の高水準な受取手数料収入の反動から純利益が同 15%減の 3.70 億 SGD となり、南アジア・東南アジアでは費用が嵩んだことから同変わらずの 2,200 万 SGD に留まったものの、シンガポールがバンカシュアランス（銀行の保険販売）に係る手数料の貢献により同 19%増の 11.2 億 SGD、中国本土が一般貸倒引当金戻入れ益により同 27%増の 9,400 万 SGD と増益に寄与した。

How do we view this ?

同社は金融専門情報誌「ユーロマネー」から 2018 年の「世界最優秀デジタル銀行」の称号を獲得した。90 秒で銀行口座を開設できるサービスをインドで手掛けたほか、2019/5 より法人向け電子決済プラットフォームで新たなデジタル・トークンを導入した。更に、業務デジタル化により 2018 年は顧客からの電話問い合わせが前年比 12%減に達するなど「フィンテック」と「デジタル化」の推進で世界的にも注目を集めており、今後の成長を後押しする原動力となるだろう。また、利益成長だけでなく、配当利回りに期待した投資も魅力的と考えられる。2019/12 通期の市場予想は、当期利益が前期比 9.7%増の 61.20 億 SGD である。

業績推移

※参考レート 1SGD=79.95円

事業年度	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F	2020/12F
純利益(百万SGD)	4,238	4,371	5,577	6,120	6,484
EPS(SGD)	1.66	1.71	2.16	2.37	2.53
PER (倍)	15.28	14.84	11.75	10.70	10.01
BPS(SGD)	17.59	18.56	19.22	19.47	20.92
PBR (倍)	1.44	1.37	1.32	1.30	1.21
配当(SGD)	0.60	0.93	1.20	1.23	1.30
配当利回り (%)	2.36	3.67	4.73	4.85	5.12

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想 (SGD) **1.23** (予想はBloomberg)
 終値 (SGD) **25.37** 2019/7/8

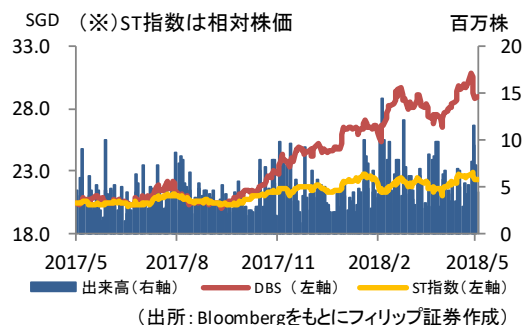
会社概要

1968年にシンガポールの工業化推進と金融センターとしての発展に必要な開発資金の融資を行う目的のもと、「シンガポール開発銀行」として設立した世界的な金融サービスグループ。18ヶ国で280以上の支店を展開する。アジアの中心的な商業銀行として、「Asia Way Banking」という独自のブランドのもと、アジア経済の長期的なポテンシャルを引き出すことに注力している。アジア経済の成長ドライバーとして中国本土、南アジア、東南アジアの3つ地域を掲げ、貿易や投資の仲介に取り組んでいる。また、デジタル技術の活用にも積極的に取り組んでいる。

シンガポール本国では、DBS銀行とPOSB (People's Bank)のフランチャイズチェーンを通じ、マス・マーケットを含めた全顧客セグメントに商業銀行業務・投資銀行業務・証券業務のほか、リース・ファクタリングなどユニバーサルバンク・サービスを提供する。それ以外の地域では、コーポレート・投資銀行業務、中小・零細企業向け与信業務、ウェルスマネジメント業務の3つの業務に注力している。

企業データ (2019/7/9)

ベータ値 1.25
 時価総額(百万SGD) 64,773
 企業価値=EV(百万SGD) -
 3か月平均売買代金(百万SGD) 112.4



主要株主 (2019/7)

(%)

1. テマセク・ホールディングス	29.97
2. CAPITAL GROUP COMPANIES INC	4.28
3. VANGUARD GROUP	2.34

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

笹木 和弘
 kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980
 増淵 透吾
 togo.masubuchi@phillip.co.jp
 +81 3 3666 0707

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>